

ひろしま西風新都都市づくり 全体計画の見直しについて

2012年10月5日

広島市都市整備局西風新都整備部



ひろしま西風新都都市づくり全体計画の 見直しの進め方について

● 第1回懇談会(8月1日開催)での説明概要

1 ひろしま西風新都について

都市づくりの基本理念、都市建設の経緯、開発フレーム等

2 都市づくりの進捗状況について

計画開発地区の整備状況、平地部のまちづくりの取組状況、都市基盤の整備状況、「住み、働き、学び、憩う」機能に関連する指標等

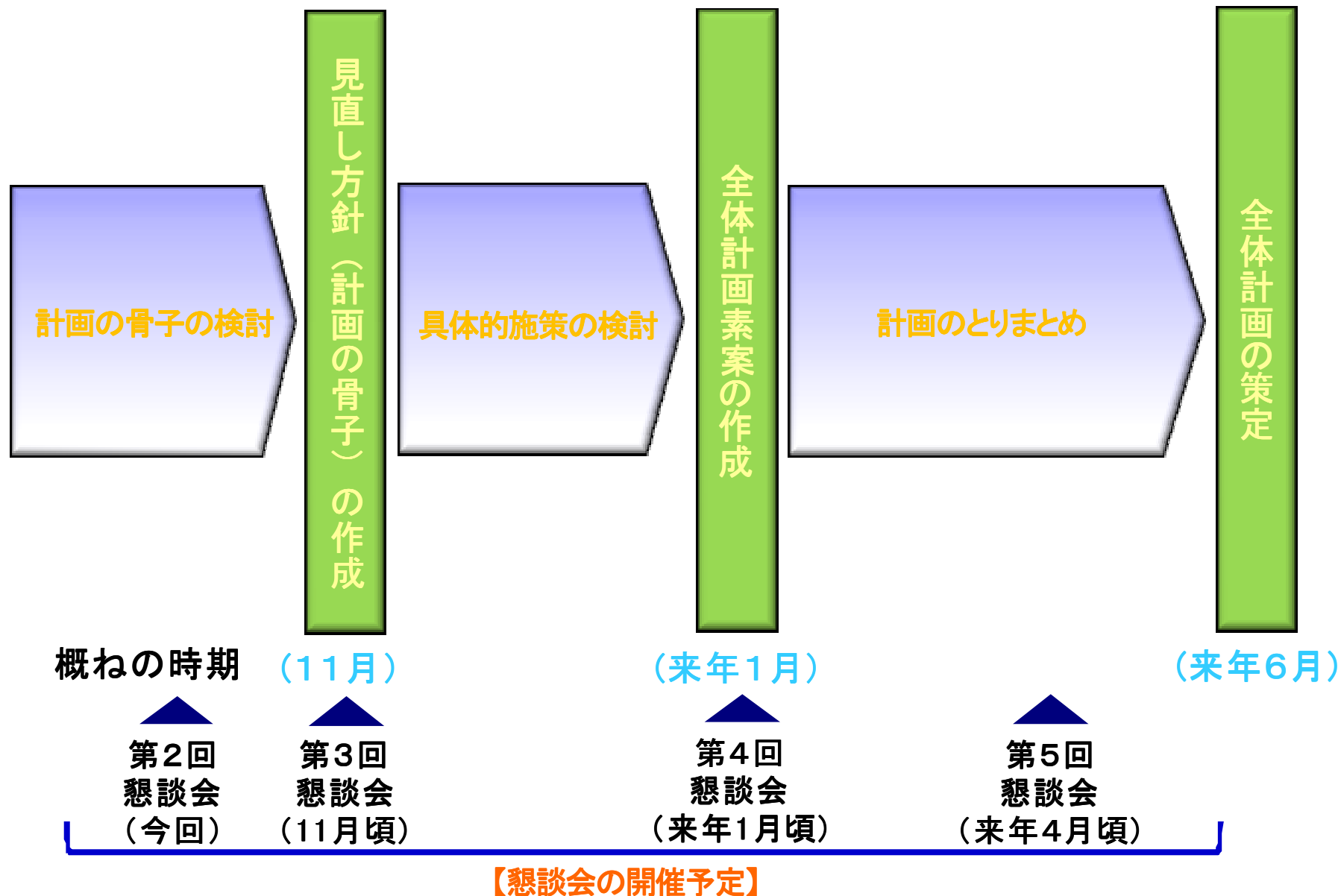
3 都市づくりにおける課題について

開発計画の遅れ・中止、道路交通混雑の発生、止まっているアストラムライン、道路整備の中断等

4 都市づくり全体計画の見直しについて

見直しの背景、見直しのねらい、見直しの視点・方向性、見直しの進め方等

見直しの進め方



ひろしま西風新都都市づくり全体計画の 見直しの目的について

■ 全体計画見直しの目的



- ◇ 西風新都の都市づくりは、平成元年にスタートし、その後平成20年2月に改定した「ひろしま西風新都都市づくり推進プラン」に基づき進めてきており、一定の産業集積と快適な居住空間の形成が図られてきた。
- ◇ しかし、社会経済情勢の変化などにより、民間開発が順調に進むことを前提とした現行の全体計画は、低成長時代に合わなくなっている。
- ◇ 一方で、本市が『世界に誇れるまち』となるためには、西風新都をより一層活用していく必要がある。
- ◇ こうしたことから、都市機能の強化、産業の振興、快適な居住空間の形成などの視点に立って、**民間の投資意欲を喚起するよう西風新都都市づくりの全体計画を見直し、計画的かつ着実に都市づくりを進めていく。**

ひろしま西風新都都市づくりの 現状と課題について

【都市づくりの経緯】

計画的な宅地供給等を目的に、本市が発展するための先導的な役割を担う官民一体のプロジェクトとして、平成元年に都市づくりがスタート



【西風新都のポテンシャル】

充実した都市基盤



二つの高速道路 I C、広島高速 4 号線、アストラムライン。大部分が過去 20 年以内に整備された新しい都市基盤

資源・マンパワー



中四国最大級のスタジアムを有する広島広域公園、知的財産や約 8 千人のマンパワーを有する二つの大学

堅調な成長



従業者 約21,000人（昭和61年の約4.5倍）
居住人口 約51,000人（平成元年の約1.9倍）
今後さらに約400haの開発予定

【社会情勢の変化】

- ◇ 景気の低迷
- ◇ 少子・高齢化
- ◇ ICTの発展に伴うライフスタイルの変化
- ◇ 価値観の多様化
- ◇ 地球温暖化への対応
- ◇ 東日本大震災を教訓とした防災や環境・エネルギー問題への意識の高まり

【都市づくりを推進する上での課題】

◆ 民先行、官追随という都市づくりの進め方が時代に合わなくなっている。

◆ 現行の全体計画は、都市づくりの方向性の記述が中心で、具体的な施策やその実施方法が盛り込まれておらず、民間の投資意欲を喚起する計画となっていない。

◆ 広域的な誘因力を持つ先進的な取組が十分とは言えない。

ひろしま西風新都都市づくり全体計画 の見直しの方角性について

■ 全体計画見直しの方向性

◇ 西風新都のポテンシャル

◇ 社会情勢の変化

◇ 都市づくりを推進する上での課題



【西風新都の都市づくりの方向性】

本市を『世界に誇れる「まち」』にするために、貴重な産業集積や快適な居住の場としてポテンシャルの高い西風新都に新風を吹き込む。

時代の変化や世界の潮流に即応した都市づくりの進め方を積極的に取り入れ、そのポテンシャルを最大限に活かすことにより、**活力にあふれた拠点**としていく。



現行の全体計画を抜本的に見直す

【全体計画見直しに当たっての基本的考え方】

民間の開発や企業立地に対する意欲を喚起するため、次に取り組む。

(1) 民先行、官追随というこれまでの進め方を改めることとし、具体的な施策の実施方法を定めることにより、都市づくりの進め方を示す。

(2) 西風新都の価値をより高めるという考え方のもと、

- ・ 時代に対応した新たな機能
- ・ 世界の潮流に沿った先進的な取組

を計画に盛り込む。

■ 全体計画見直しの方向性

【現行計画の見直すべき点】

(1) 都市づくりの方向性は明示するものの、具体的な実施方法が示されていない。

(2) 都市基盤整備の順序が明示されておらず、民間投資を呼び込みにくい。

(3) アストラムライン延伸計画の事業化時期を明示しないまま、公共交通の充実・強化策を示している。

【計画見直しのポイント】

(1) 都市づくりの施策の**具体的な実施方法**を示すものにする。

(2) 「選択と集中」の下、都市内の**幹線道路整備の優先順位**を明示し、民間の投資を促進する。

(3) アストラムライン延伸計画の事業化見通しを明らかにした上で、**公共交通の充実・強化の方針**を明示する。

全体計画見直しの方向性

【現行計画の見直すべき点】

(4) 明らかに開発の見込みが立たなくなっている地区がある。

(5) 地域住民を主体とする平地部のまちづくりは順調に進んでいない。

(6) 都市防災の視点が欠けている。

(7) 時代の変化に応じて民間の投資意欲を喚起するような要素が欠けている。

【計画見直しのポイント】

(4) **実現可能な開発計画に絞り込む。**

(5) **まちづくりの具体的な進め方を示すことにより、地域住民の取組を促進する。**

(6) 東日本大震災を教訓に、**都市機能に防災機能を追加する。**

(7) エネルギー効率が高く環境にやさしいまちづくりの推進など、時代の変化に応じ、**民間の投資意欲を喚起するような要素を盛り込む。**

■ 全体計画見直しの方向性

● 計画の全体構成について

現行計画における「全体構成」

- 都市づくりに関する理念、枠組、方針、推進体制等の
マスタープラン中心に構成されている。
(具体的な施策が盛り込まれていない。)

見直しのポイント

具体的な施策の実施方法 (**プログラム**) を
定めることにより、都市づくりの進め方を示す。

都市づくりの基本的方向性を示す**マスタープラン**と、都市
づくりの具体的な施策を含む**プログラム**の2部構成とする。

マスタープランの見直しのポイントについて

■ マスタープランの見直しのポイント

● 都市づくりの目的について

現行計画における「都市づくりの目的」

- 産業の活性化
- 高次都市機能の充実・強化
- 計画的な宅地供給

を図ることにより、広島市
全体の均衡ある発展に寄与
する。

見直しのポイント

現行計画の目的は踏襲しつつ、広島市域を超えて、より
広域的な発展を牽引していくという視点も加える。

優れた立地を生かし、既に快適な居住の場、貴重な産業集
積の場となっている西風新都を、さらに市民が生き生きと暮ら
し、働き、集うような活力にあふれた拠点とすることにより、
広島広域都市圏や中四国地方の成長・発展を牽引する。

■ マスタープランの見直しのポイント

● 都市づくりの基本理念について

現行計画における「都市づくりの基本理念」

- 「住み、働き、学び、憩う」機能を備えた新たな都市拠点の形成
- 自然環境等と調和した人間性豊かな都市の形成

見直しのポイント

西風新都を**活力にあふれた拠点としていくという観点**から、「都市づくりの基本理念」を再構築する。

(1)誘引

多種多様な目的(買物、ビジネス、勉学、スポーツなど)を持った人々を広域から**“誘引”**する魅力的な「まち」とする。

(2)推進

多種多様な活動でヒト、モノ、カネが循環することにより、エンジンのように**“推進”**力を生み出す「まち」とする。

(3)先導

ライフスタイル、文化など様々な分野で新たな価値をつくりながら、広島広域都市圏、中四国地方を牽引する**“先導”**的な「まち」とする。

■ マスタープランの見直しのポイント

● 都市機能について

現行計画における「都市機能」

(1) 「住む」



(2) 「働く」



(3) 「学ぶ」



(4) 「憩う」



見直しのポイント

高台にあるという西風新都の立地特性を活かして、時代に対応した新たな機能を追加する。

(5) 東日本大震災を教訓として、「護る」(防災機能)を追加
次の二つの視点から検討中

- ① デルタ市街地にある防災拠点施設の代替機能の導入による**市域全体の防災力**の向上
- ② 西風新都内の**地域防災力**の向上



■ マスタープランの見直しのポイント

● 都市づくりのスケジュールについて

現行計画における「都市づくりのスケジュール」

■ 西風新都の都市の概成時期を、21世紀中頃に設定



見直しのポイント

都市の概成時期(21世紀中頃)とは別に、
都市基盤(幹線道路等)の概ねの完成を目指す時期を新たに設定

■ マスタープランの見直しのポイント



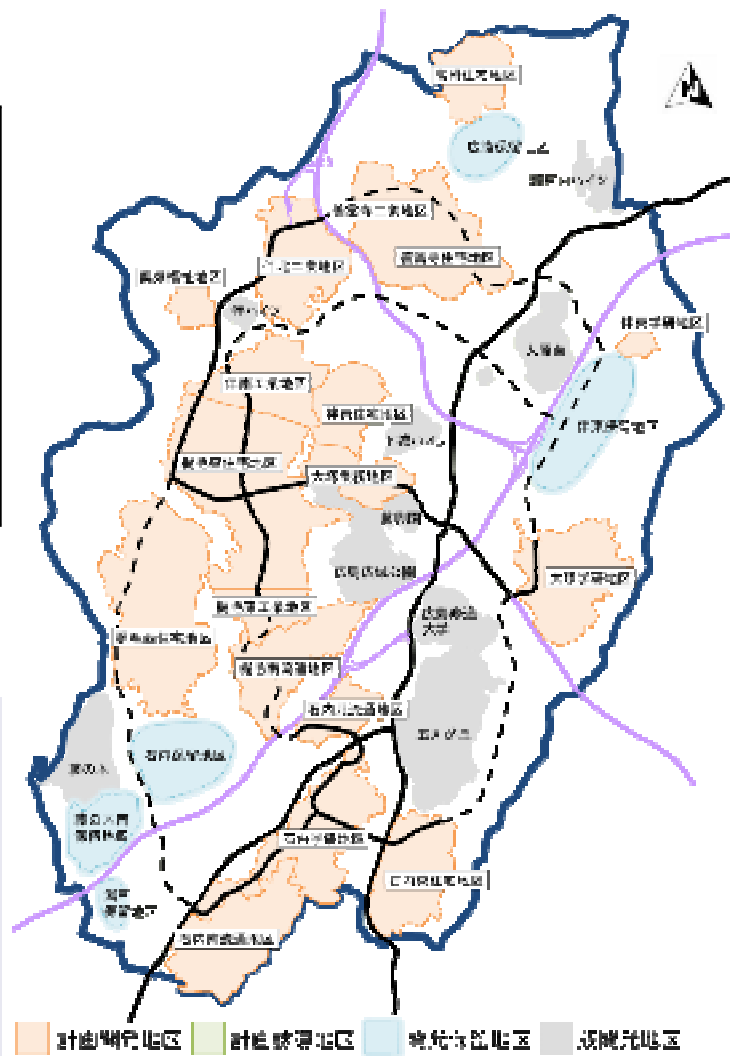
● 開発計画の位置付け及び取扱いについて

現行計画における「開発計画の位置付け」

- 『計画開発地区』：民間開発事業者等により丘陵部の計画的な開発を行う地区
- 『開発保留地区』：開発の可能性はあるが、事業の熟度から土地利用が未決定の地区（5地区）

見直しのポイント

事業予定者がいなくなり開発の見込みが立たなくなっている**計画開発地区**や、具体的な開発の動きが全く見られない**開発保留地区**があることから、**実現可能な開発計画への絞り込みを検討**



■ マスタープランの見直しのポイント

● 人口フレームについて

現行計画における「人口フレーム」

- 中期目標 6万人（平成32年度（2020年度））
- 長期目標 8万人（21世紀中頃）



見直しのポイント

今後の全市的な人口推移や民間開発の動向を踏まえた人口フレームを設定

■ マスタープランの見直しのポイント

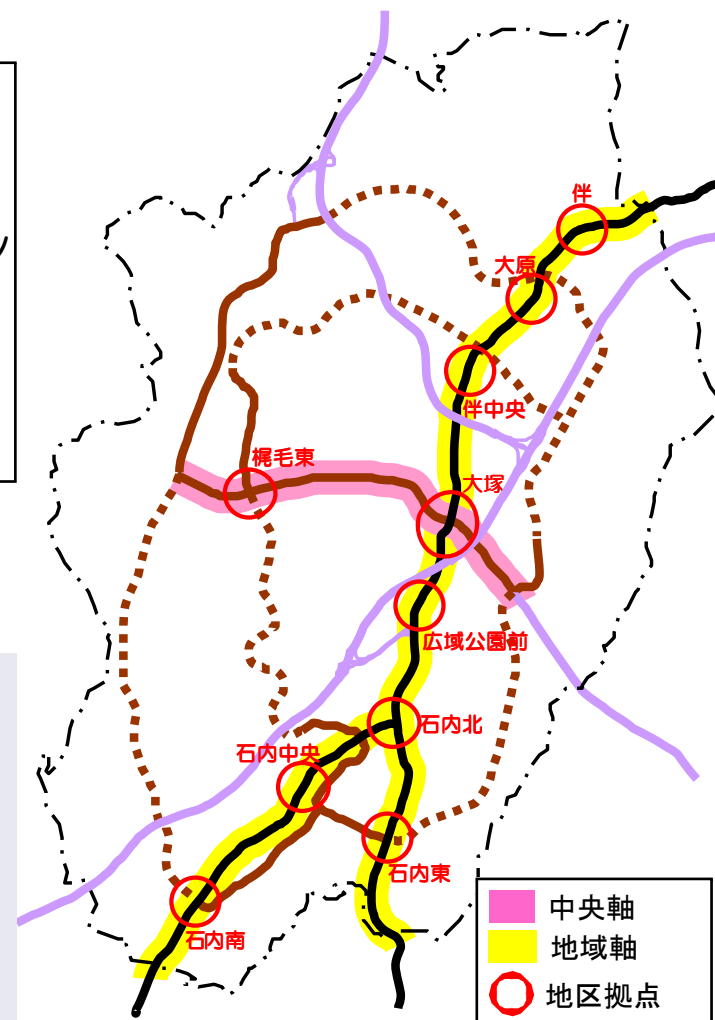
● 都市構造の形成について

現行計画における「都市構造の形成」

■ 幹線道路やアストラムラインの沿道を「軸（中央軸・地域軸）」、アストラムラインの駅周辺等を「地区拠点」とし、これらに適切な都市機能を配置する。

見直しのポイント

「軸」、「地区拠点」に都市機能を配置する考え方は踏襲



■ マスタープランの見直しのポイント

● 自然環境の保全について

現行計画における「保全の方針」

- 西風新都を取り囲む山林は、水源かん養、環境浄化、防災、景観形成に寄与する機能を有していることから、良好な自然環境として保全を図る。



見直しのポイント

現行計画の「**保全の方針**」を踏襲しながら、現状の課題を踏まえた記述を書き加える。

■ マスタープランの見直しのポイント

● 公共公益施設の整備方針について

現行計画における「公共公益施設の整備方針」

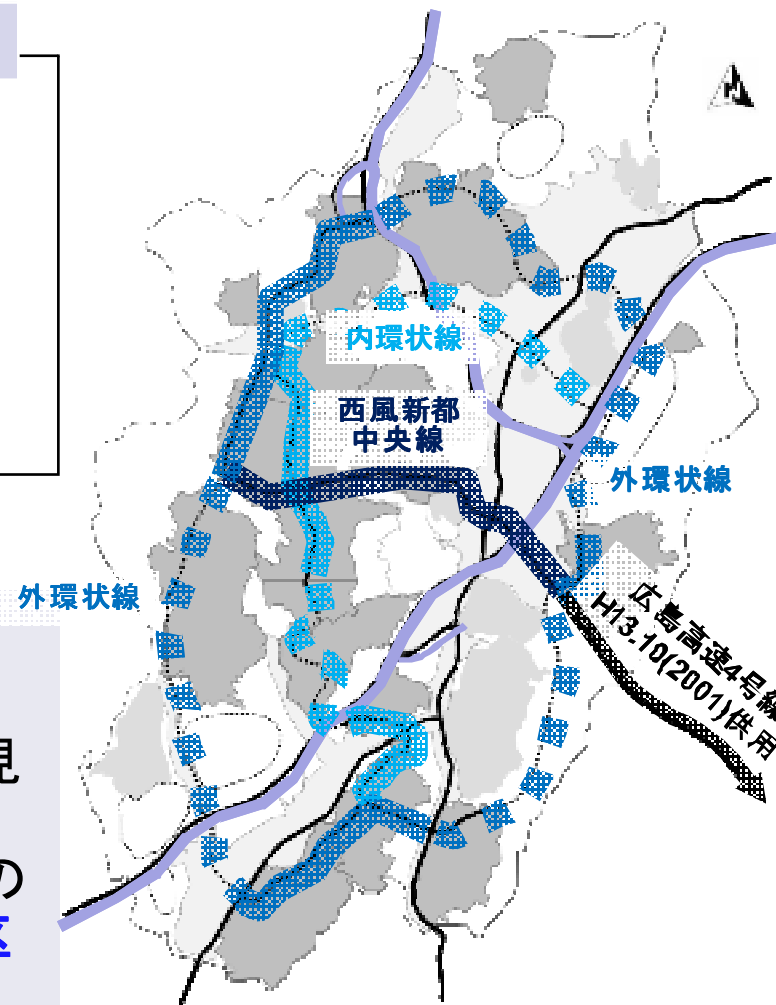
〔西風新都内幹線道路〕

- 西風新都内の幹線道路は、各計画開発地区等を有機的に連結するものであり、開発時期との整合を図りながら整備する。

見直しのポイント

〔西風新都内幹線道路〕

将来の自動車交通需要や開発計画の見通しなどを踏まえ西風新都内幹線道路ネットワーク計画を見直したうえで、民間の投資を喚起するためにも**必要性が高い区間を着実に整備する方針とする。**



■ マスタープランの見直しのポイント

● 公共公益施設の整備方針について

現行計画における「公共公益施設の整備方針」

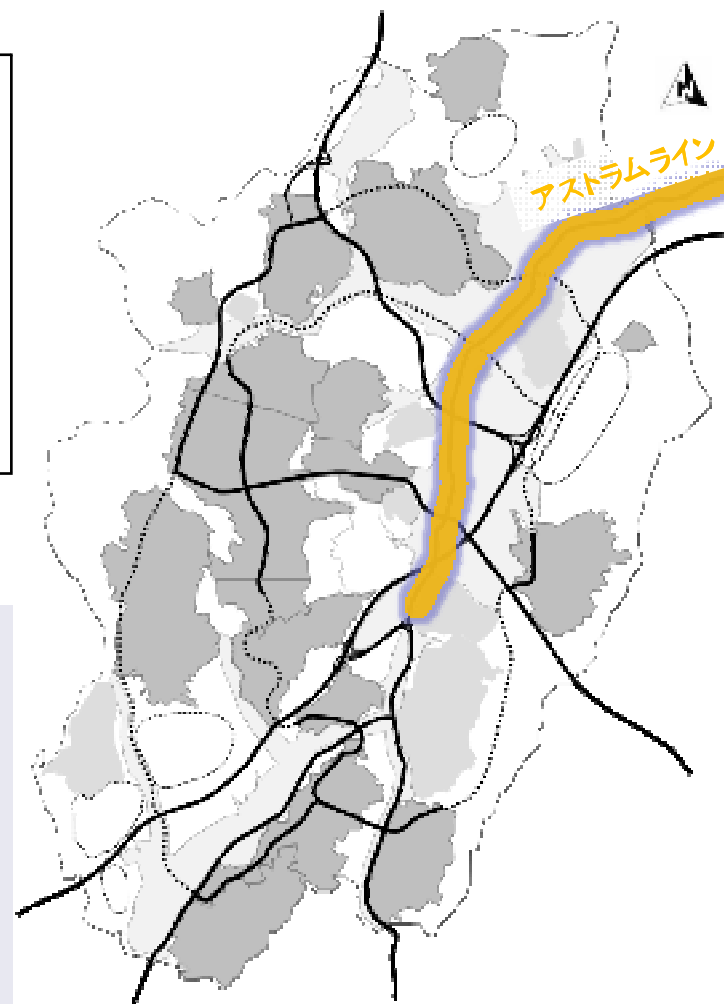
〔アストラムライン〕

- 広域公園前駅からJR西広島駅までの延伸計画である新交通西風新都線については、利用者予測や収支計画などを再検証したうえで、将来の事業化時期を判断する。

見直しのポイント

〔アストラムライン〕

アストラムライン延伸計画について「利便性向上とコスト縮減の両立」の観点から見直し検討しており、**事業化の見通しなど見直し結果を踏まえた整備方針とする。**



■ マスタープランの見直しのポイント

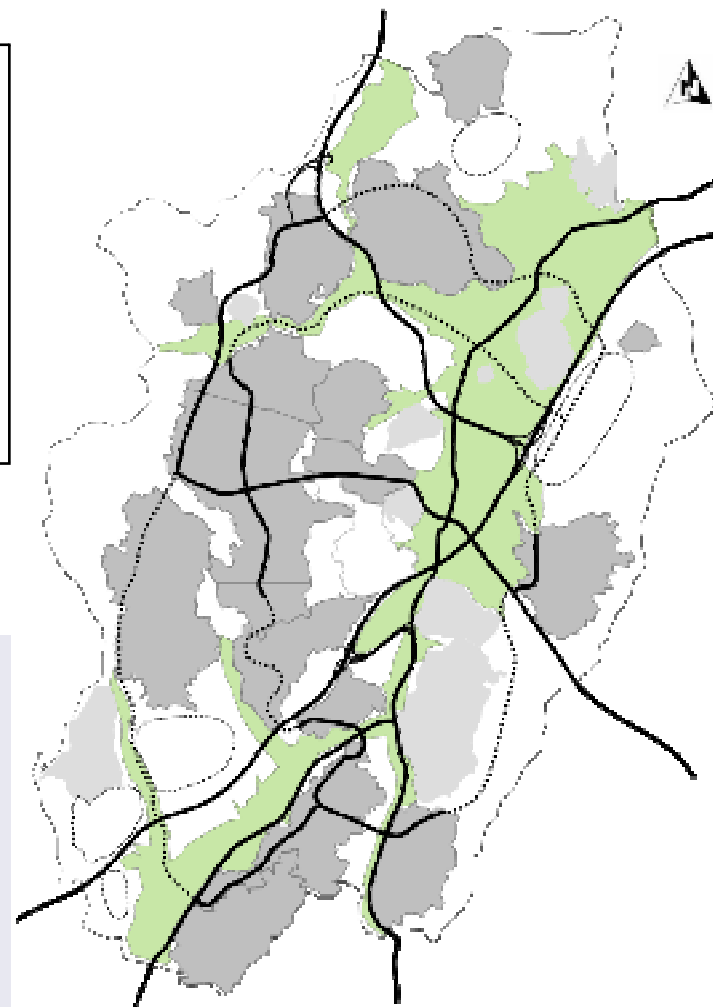
● 平地部のまちづくり方針について

現行計画における「平地部のまちづくり方針」

- 各地区の特性を活かし、地域住民が主体となったまちづくりの促進を図る。
 (大原地区、伴中央地区、大塚地区、石内地区の 地区別のまちづくり方針を示している。)

見直しのポイント

各地区のまちづくりの進捗状況や検討状況に応じた記載に時点修正。
 合わせて、計画の策定など、具体的な**まちづくりの進め方を明示**。



プログラムで示す新たな施策(案)について

■ プログラムで示す新たな施策(案)



(1) 防災力の向上

- デルタ市街地の被災により現在の防災拠点施設(災害対策本部、データセンター等)の機能が損なわれた場合を想定し、**西風新都へ防災拠点施設の代替機能を導入すること等について、検討を進めている。**
- 西風新都が安全に安心して住み、働くことができる「まち」となるよう、**地域防災力をより一層高める施策について、検討を進めている。**

(2) エネルギー効率が高く環境に優しいまちづくりの推進

- 世界の潮流に沿った先進的な取組として、再生可能エネルギーの活用により多様なエネルギー源を確保する、あるいはICTを活用して地域内のエネルギーの最適化を図るなど、**今後の方向性や進め方について検討を進めている。**